

学際的海洋教育に関する研究

福島朋彦 海洋アライアンス

学問の領域を細分化すると、個々がカバーする範囲が限定され、効率的な研究が期待できません。しかし、細分化が過度に進めば、個々の内容は限られた専門家しか理解できないことになり、対象とする事柄の全体像を見失う可能性もあります。そのため、応用的な学問の中には、細分化とともに、統合化・融合化というアプローチが必要になりました。これが学際です。

海洋にかかわる諸問題は、複雑かつ重層的に存在しますので、問題解決と言う観点では学際的な考え方や取り組み方が特に重要です。しかしながら、これまでわが国の大学では研究科を横断した海洋教育が十分に行われておらず、そうした知識やスキルは、必要に応じて社会の中で身に付けるのが普通でした。しかし新しい海洋秩序の形成に伴い、以前にも増して、学際的海洋教育の必要性は高まっています。

現在のところ、学際的な海洋教育という言葉には、

厳密な定義がありませんので、関係者間でも漠然とした理解にとどまっています。そのため、学問・教育としての本質的な意義や中核的な事項も共有されていません。しかし、学際的海洋教育を普及推進するには、それらを大学や学術団体のなかで確立・共有してゆく必要があります。

本イニシアチブは、大学および関係分野横断的な研究会を結成して、学際的海洋教育の本質についての共通認識を持ち、その具体的な内容を研究することにしました。これまで学際的海洋教育の本質論から、具体的な教育の内容についてまで、幅広く検討してきました。しかしながら、教育の問題には様々な意見があるため、議論が発散したままの事項も少なくありません。今後、さらに議論を積み重ね、個々の大学の固有の教育方法を認めつつも、全体をして共有すべき内容について詰めてゆきたいと思っています。



普及推進用に作成した和文・英文小冊子